

Q1 どんな先生が教えているのですか？**A1** 教研の先生は「超一流」です。
各方面で最高の評価を受けている自慢の講師陣です。

「結果」を出せる先生が超一流の先生です。

大手予備校の中には「学生が到底思いつかないような解法やパフォーマンス」で人気をとっている先生もいますが、私たちから見たら、ただの「自己満足」で決して超一流の先生とは言えません。

超一流の先生は「結果」を出すための工夫をします。テストをします。問題演習に時間をかけます。当然指導技術は持っていますが、「結果」を出すための方法を知っています。派手さと地味さを常に兼ね備えているのです。

教研の先生は、「授業がよくわかる」と感じ「成果を実感」できる授業で、「満席」「増設講座続出」「授業アンケート満足度、ほぼ95～100%」を実現する「超一流」の先生です。

Q2 質問できますか？ 現在予備校に通っていますが、質問がしにくい雰囲気です。**A2** 先生が直接質問に答えます。
予備校によっては「質問行列」ができたり、「学生チューター」が質問に答えているそうです。

教研は、「超一流」の先生が直接、質問に対応します。予備校では先生に長時間の質問をすることはできません。予備校から移ってきた学生は質問のしやすさに驚いています。

Q3 授業で小テストなどは行いますか？

A3 超一流の先生は「指導技術」だけではなく、テストや演習を重視しています。当然、テストや問題演習には十分に時間をかけています。

全員を把握できる人数のため、確認テストや課題の回収・チェック（採点）は先生が直接行い、個別にフォローしています。必要があれば生徒面談もします。

更に、計算力が影響する理系教科は、授業終了後に正解するまで演習することもあります。

これらの地道な指導を「超一流」の先生自らが実施し続けることで、他では実現できない合格実績を出し続けています。

Q4 授業を欠席したらどうなりますか？

A4 欠席された集団授業は録画されます。よって、後日同じ授業を視聴することができます。

大学受験指導の授業は内容が濃く、1回の欠席がその後に大きく影響します。集団授業を欠席した場合、映像授業で出席時と同じ授業を受講することができます。

※映像録画には事前欠席連絡が必要です。

Q5 「数学演習」はどのような授業ですか？

A5 指定講座を受講する生徒対象の無料講座です。地道な演習で効果を出しています。

高校数学は地道な練習が欠かせません。毎週、定期的に長時間練習することで確実に力をつけることができます。

※無料条件

- ・「数学ⅠとA」または「数学ⅡとBC」をセットで受講（「数学Ⅰのみ」のような場合は有料）
- ・「数学ⅠAⅡBC」を受講

Q6 「演習」はどのような授業ですか？

A6 演習しなければ効果は期待できません。地歴公民の学習法を根底から変えた「教研独自」の演習講座。必ず結果を出します。

教研では、共通テスト・模試・定期テスト等の日本史・世界史は高得点を実現させています。その秘訣は演習にあります。

地歴公民の場合、授業と同じくらい重要なのは問題演習ですが、多くの学生はこの問題演習が明らかに足りません（授業を受けて満足しています）。本演習では受験までを逆算し、「いつ」「何を」「どのように」学習するのかを、志望校を考慮した上で明確に指示し、それを忠実に遂行させます。共通テストのみならず、私大一般入試でも地歴公民の得点率を8割以上にすることが可能です。

学生にとって計画通りに学習を進められないことは常ですが、本演習をペースメーカーとすれば間違いなく成果は出ます。

Q7 共通テストの対策はどうなっていますか？

A7 9月以降に受験生を対象に実施しています。対策講座やテストを実施して問題に慣れていきます。

共通テストは、一般入試問題とは異なる対策が必要です。共通テスト特有の問題、共通テストでしか出題されない単元があるからです。共通テストの過去問を徹底的に分析した「独自の解法」を伝授し、必ず結果に結びつけます。超一流講師が分析した「独自の解法」を身につけた方が、自分で学習するより遥かに効率的です。9月以降、下記の6つの講座を開講します。

共通テストのための対策講座

・英語 ・数学ⅠA ・数学ⅡBC ・物理 ・化学 ・共通テスト模試

※「共通テスト模試」は本番を想定して、文系日程、理系日程に分けて実施します。予備校などで行われる「一日で終わらせる強行スケジュール」ではありません。

Q8 模擬試験は実施しますか？

A8 高1生・高2生は年間4回実施します。

学校の成績だけでは自分の実力は図れません。また受験に向けてのモチベーションも上がりません。高校1、2年生は年に4回模試を実施し、偏差値と志望校判定で早い時期から受験の意識を持たせます。第4回模試（1月実施）はマーク模試を行い、共通テストを意識したカリキュラムを導入しています。

高柳英護 Takayanagi Eigo

数学・物理・化学

教研所属の専任講師。大手予備校でもその手腕を発揮している。数学、物理、化学の全ての教科において難関大学合格まで導くことが出来る日本で唯一とっていい稀有なプロ講師。

自身の指導技術・能力向上のため、東大・京大・東工大をはじめ早稲田・慶應など難関大学の入試問題分析には余念がない。これら大学の近年 10～20 年間分の入試問題はほとんど全てが頭に入っており、解法も瞬時に浮かぶほど。授業パフォーマンスも強いので、聞いていて飽きることはない。

直接指導した学生の難関大学合格校は当会も含め、東大・東工大・横浜市立（医）・東北大・慶應（医）・慈恵医科・順天堂（医）・自治医大・防衛医大・日大（医）・北里（医）・東海（医）・昭和（医）・東京医大・杏林（医）・日本医大・早稲田他多数。これら難関大学以外にも、高校 3 年生の第 1 回河合塾全国記述模試で偏差値が 45 前後の学生を、何人も東京理科大学に現役合格させる指導も行なっている。

＜紹介＞

『理系科目は「本質」から理解しなければいけない』 このことをモットーに常に熱血指導をしている。難関大学合格の多くの学生は「本質を理解させる高柳の理系教科」の力に寄るところは大きい。

指導教科に関する努力は怠らず、常に最新問題の分析や指導法の研究には余念がない。毎年、10～20 校（学部）の入試問題を的中させ続けている。当会が絶大な信頼を置いている専任講師の一人であり、学生からの評価も非常に高い。

「今まで習っていた先生の授業が、いかにダメな授業だったか……。高柳先生の授業を受けてはじめてわかった」このような声は常に聞く。

「素晴らしい指導者と出会うこと」はその学問に開眼することで、「人生を変える」といっても過言ではない。

理系を本格的に目指している学生諸君！是非、早く、「高柳の授業」に出会ってほしい。



Reading、Listening、Speaking、Writing の 4 技能すべてに精通！

一般に高校生指導で、「基礎クラスの指導は難しい」といわれている。それは一度苦手になった教科を得意にさせることは簡単ではないからだ。石井先生は指導技術だけではなく、どんな生徒も見捨てることなく、粘り強い指導をする。よって、多くの生徒が英語を得意教科にしている。発展クラスの生徒からの評価も高いのは言うまでもない。本格的な発音を用いてのリスニング指導（英検の2次対策等）は常に満員御礼である。明るい性格と親しみやすい人柄で教研の人気講師の一人である。数多くの講師が参加する「授業コンテスト」で最優秀講師賞を受賞した経験も持つ。



